

バリデーション審査結果等の概要

平成 21 年 12 月 3 日
気候変動対策認証センター

(1) プロジェクトの概要

プロジェクト名	滝上町ホテル溪谷木質バイオマス活用プロジェクト						
申請受理日	2009年10月6日						
プロジェクト代表事業者	森林バイオマス吸収量活用推進協議会						
プロジェクト事業者	株式会社たきのうえドリーム						
プロジェクト参加者	滝上町 濁川製材株式会社 滝上町林業協同組合						
オフセット・クレジット (J-VER) 取得予定者	森林バイオマス吸収量活用推進協議会						
プロジェクト概要	<p>町内の公共施設である「たきのうえホテル溪谷」に木質チップを燃料とするチップボイラーを平成21年2月17日から導入した。その結果として化石燃料から脱却したエネルギー利用を推進し、二酸化炭素排出量を低減させることで地球温暖化防止に寄与することを目的とする。</p> <p>また、現在林業が直面している問題として木材販売による収益よりも保育や間伐などの事業費の方が高額になるということがあり、林内の土場に林地残材（枝条等も含む）が放置されているケースが多くなっている。これらの林地残材をエネルギー源として有効利用してクレジット化することで、地球温暖化防止に寄与する以外に、間伐や植栽などの森林整備の促進や林業・林産業の活性化につなげることも目的としている。</p>						
プロジェクト期間	2009年2月17日～2024年2月16日						
クレジット期間	2009年2月17日～2013年3月31日						
想定削減量	年度	2008	2009	2010	2011	2012	合計
	t-CO2	32	287	287	287	287	1,180
ポジティブリスト	No. E 001						
方法論	JEAM 001（化石燃料から未利用の木質バイオマスへのボイラー燃料代替）						

(2) 審査結果

※審査内容におけるアルファベットは申請書、ローマ数字はモニタリングプランにおけるセクションをしている。

(2)-1 審査結果

審査内容	バリデーションチームの審査結果
プロジェクト情報 (A・B)	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書におけるプロジェクト情報が重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
適格性要件（C）	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトの申請書における方法論JEAM001の適用は実施規則及びポジティブリストNo.E001に準拠しており、適格性要件を満たしていることを確認した。現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
排出量・吸収量算定（I・II）	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおける排出量算定は、方法論JEAM001及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。なお、現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
モニタリング計画 (III～VI)	モニタリングプラン、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行った結果、当プロジェクトのモニタリングプランにおけるモニタリング計画は、方法論JEAM001及びモニタリング方法ガイドラインに準拠していることを確認した。現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲によって、重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
その他の論点	申請書、証拠書類等を文書上で確認し、関係者に電話によるインタビューを行い、関連する許認可及び関連法令等の遵守状況を確認した結果、現地における実査を踏まえていないため、デスクレビュー及びインタビューによって判明した範囲において、当プロジェクトの申請書におけるその他事項において重要性の点から適正に表示されており、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。
認証運営委員会への推奨	オフセット・クレジット（J-VER）制度実施規則に基づいて実施された当バリデーションの範囲で、バリデーションプロセス及び手順を進めた結果、本プロジェクトは、ポジティブリストNo.E001の適格性基準を満たし、方法論JEAM001に照らし

	<p>た算定式が設定されており、適格性基準に整合していることが確認された。また、排出削減・吸収量の計算方法、モニタリング方法等については、方法論に則って作成されており、ルールへの準拠性が確認された。</p> <p>現地における実査を踏まえていないものの、デスクレビュー及びインタビューにおいて判明した範囲において、本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による登録を行うことを推奨する。</p>
--	--

(2)-2 審査結果修正分

審査内容	バリデーションチームの審査結果
修正箇所	<p>プロジェクトボイラー効率η_{pj}を、温度と流量を計測することにより算定するよう計画されていたが、第7回（平成21年度第4回）オフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による方法論JEAM001の改訂を受け、当該プロジェクトボイラーの定格出力が1000kw以下のボイラーであることから、メーカーによるカタログ値を適用する旨の修正が行われた。同修正内容をオフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認した。</p>
認証運営委員会への推奨	<p>平成21年11月10日に開催されたオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会において登録が承認された際の本プロジェクトは、モニタリングプランにおいてプロジェクトで使用するボイラー効率η_{pj}に関し、還温度、往温度、水の流量の実測に基づいた算定という計画となっていたが、同委員会の「ポジティブリスト・方法論に関する方法論パネルにおける審議結果に関する報告・審議」により方法論JEAM001の一部修正が承認された。当該承認事項のひとつとして、「プロジェクトで使用するボイラー効率η_{pj}の算定は、定格出力が1000kw以下のボイラーについては、メーカーの仕様書等に記載されたカタログ値の使用を認める」ものである。これを受け、本プロジェクトでは還温度、往温度、水の循環量のモニタリングについて、今後検定付計量器の設置が行われるとされていたことは必須事項ではなくなったため、申請者より申請書の修正が行われた。同申請書においても本プロジェクトが、オフセット・クレジット（J-VER）制度に依拠して作成されていることを確認し、本プロジェクトに対しオフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会による修正登録を行うことを推奨する。</p>

(3) パブリックコメントの概要

該当箇所	ご意見
	意見募集期間中にいただいたご意見はなかった。

(4) 認証運営委員会の結果

平成21年度 第7回オフセット・クレジット（J-VER）認証運営委員会（平成21年11月10日）にお

いてプロジェクト登録が承認され、平成 21 年度 第 8 回オフセット・クレジット (J-VER) 認証運営委員会 (平成 21 年 12 月 3 日) においてプロジェクトが修正登録された。